

【 概 要 】

平成21年度 民間住宅ローン利用者の実態調査
【民間住宅ローン利用者編】（第3回）

1. 調査の概要

調査対象期間(平成21年11月～平成22年2月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(2/9～2/15)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:1,031件。

2. 調査結果の主なポイント

(1) 「変動型」利用割合は51.8%に増加

- ・「変動型」の利用割合は、今回の調査対象期間(平成21年11月から平成22年2月)を通しての割合が51.8%(前回調査:50.5%)に増加している。
「固定期間選択型」は、今回の調査対象期間を通しての割合が32.7%(前回調査:30.7%)に増加している。
「全期間固定型」は、今回の調査対象期間を通しての利用割合は15.5%(前回調査:18.8%)に減少している。 <p2>
- ・年齢別にみても、すべての年代で「変動型」利用割合は、5割を超えている。 <p4>
- ・全利用者の38.2%を占める世帯年収「400万円超～600万円以下」の年収層では、「全期間固定型」が16.2%(前回調査12.7%)に増加 <p5>
- ・今後の金利見通しについて、すべての金利タイプで「現状よりも上昇する」が前回調査より減少。「全期間固定型」利用者では「見当がつかない」が15.6%と他の金利タイプと比べ高い水準 <p6>

(2) 住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が72.0%と圧倒的に多い。次いで、「繰上返済手数料が安かったこと」が「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」と同率(26.7%)で2番目に多くなっている。 <p11>